

**Q** 『広報そうじゃ』11月号に掲載された清音神在本線の財政計画を見ると、市の持ち出しは1億3770万円だけのように思えますが、合併特例債も借入金なので返済も市の持ち出しになるのでは？

**A** 合併特例債の返済の一部も市の持ち出しです。平成17年から26年までの事業費は61億円です。このうち55%が国からの補助金33億5500万円、残りの事業費の95%にあたる26億730万円を合併特例債（返済が補助される有利な借入金）として借り入れます。しかし、合併特例債については、借入金ですから返済しなければなりません。返済する額の70%

が普通交付税として国から交付されます。このため、下の表にある「市の持ち出し」の合計額1億3770万円に、借入金額の30%にあたる7億8219万円を加えた9億1989万円が最終的な市の持ち出しとなります。また、この借入金は3年据え置き17年償還で、返済は平成20年度から平成46年度まで続きます。返済のピークは、平成30年度の約2億円と予想されます。

問い合わせ 土木課土木係 (☎)8291

■清音神在本線の財政計画

[金額は建設時のもの。合併特例債は借入金のため返済しなければなりません]

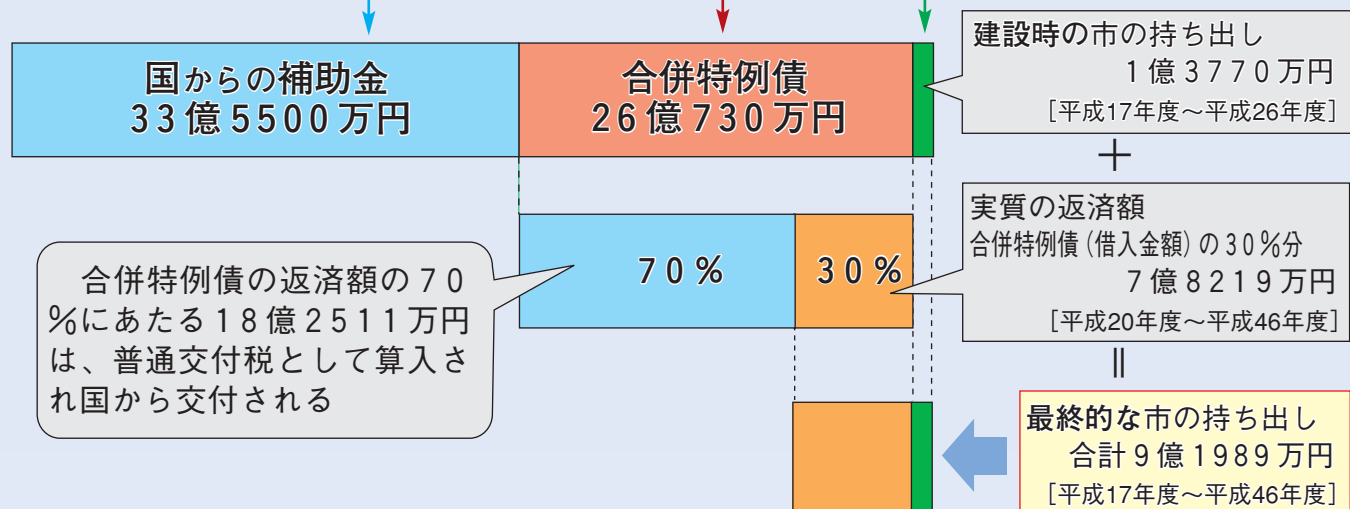
年度	事業費	補助金	合併特例債	市の持ち出し
17	1億2000万円	6600万円	5130万円	270万円
18	3億900万円	1億6995万円	1億3200万円	705万円
19	3億9800万円	2億1890万円	1億7010万円	900万円
20	1億円	5500万円	4270万円	230万円
21	2億9000万円	1億5950万円	1億2390万円	660万円
22	4億円	2億2000万円	1億7100万円	900万円
23	9億円	4億9500万円	3億8470万円	2030万円
24	13億9000万円	7億6450万円	5億9420万円	3130万円
25	14億5000万円	7億9750万円	6億1980万円	3270万円
26	7億4300万円	4億865万円	3億1760万円	1675万円
合計	61億円	33億5500万円	26億730万円	1億3770万円

清音神在本線の総事業費

61億円

(平成17年度～平成26年度)

財源の内訳



※この数字は理論値であり、これからの社会情勢などにより変動することもあります。また、金利の変動も予想されるため、利子分は含んでいません。

# 給食

残さない努力  
望ましい食習慣づけ

楽しみにしている給食の時間。どの教室にも子どもたちの明るく元気な声がこだましています。

「給食を残さない」、「望ましい食習慣を身につける」の2つについて、小・中学校の取り組みを調べました。残さず食べるための取り組みとしては、まず、全部食べた児童には、カードなどにシールを張り、完食が児童のはげみになるよう9つの小学校が実施。ま



た、一人ひとりにあつた量、食べられる量に調整し、「完食した」という意識を育てること、6つの小学校が取り組んでいます。このほかノー残業デーや強化週間を設けるなど、すべての小・中学校で残食を少なくしようという意識を高めることに取り組んでいます。一方、望ましい食習

慣づけについては、家庭科や保健の時間での指導をはじめ、給食新聞やお便りの発行、寸劇やゲームのなかから学ぶ、ビデオやプリントを使って話をするなど、さまざまな取り組みについて回答がありました。その内容も、はしの使い方やおせん立、生活習慣、マナー・姿勢、栄養などさ

まざまです。中学校では、外部から講師を招いて話を聞いている学校もあります。小・中学生は将来の自分の健康の基を作っている一番大切な時期です。残さず食べることを、マナー、おせん立とといった基本的なことをしっかりと身につけることが求められます。学校も給食という形でこの一翼を担いますが、各家庭でもよろしくお願ひします。



総社小学校 西尾由紀 教諭

子どもたちには、一食の量を目で見て確かめ、知ってほしいです。そして、すべてのおかずを一口は食べてもらいたく、苦手な食べ物を残さないよう、給食の時間には「お互いに、はげましあって食べようね」と声を掛けています。栄養のバランスの大切さを知り、苦手な食べ物が一つでもなくなってくれることを願ってのことです。

家庭でも、苦手な食べ物の克服のため、調理方法を工夫するなどして、バランスのとれた食事をお願いします。また、主菜、副菜、汁物の「おせん立」にも気を配ってあげましょう。